

from **NOW ON** KANSAI

ひとを見つける、ひととつながる
関西広域連合のビジネス情報紙



**DXにより円滑な業務の流れを実現
業界が抱える構造的課題の改善を目指す**

～株式会社アクトワンヤマイチ



◀代表取締役社長の山田耕次氏

DXにより円滑な業務の流れを実現 業界が抱える構造的課題の改善を目指す

社内向けと事業展開の双方でDXを推進

猶予されていたトラックドライバーの時間外労働の上限規制が2024年4月から適用されている。モノの流れに影響が生じれば、多くの業界に影響が及ぶことから、いわゆる2024年問題への対応は物流・運送業界だけの問題ではない。

建設用仮設機材の卸レンタルの株式会社アクトワンマイチは、DX(デジタルトランスフォーメーション)を積極的に進めることで、自社の業務の省力化、効率化を図るとともに、物流・運送業界の2024年問題への対応に力を入れている。

同社は、建築機材レンタル会社に機材をレンタルする卸レンタルのビジネスモデルを業界内でいち早く確立した先駆的存在だ。脚立や台車など内装用の軽仮設機材を中心に



▲大正機材センター

●プロフィール

株式会社アクトワンマイチ

1964年創業。建設用仮設機材の卸レンタルビジネスを先駆けて確立。脚立や台車からデジタル技術を活用したウェアラブルカメラまで680種以上の機材を揃え、全国19カ所の機材センターを構える。

(本社)〒530-0004 大阪市北区堂島浜1丁目4番19号

マニユライフプレイス堂島8階

<https://www.act-1.co.jp/>

680種類以上の品揃えを誇り、全国19カ所の機材センターから、工場や物流センター、大規模ショッピングセンターなどに必要な機材を貸出している。2022年に代表取締役社長に就任した山田耕次氏は、2024年を建設DX元年と位置付け、同社の中期事業戦略に、「アクトワンDX」と名付けた取組を掲げ、自社のDX推進や、建築現場のDXに寄与する自社商品の開発を進めている。

ドライバーの待ち時間短縮のため 順番管理システムを導入

同社にとって、機材センターでの業務の効率化、ドライバーの待ち時間解消は大きな課題だった。以前は、ドライバーが機材センターで荷受けの受付を行い、待ち時間がある場合は、別の場所で待機してもらっていた。待ち時間は2時間にも及ぶこともあり、順番が来たドライバーをスタッフが電話で呼び出していた。さらに、待機中のトラックの排出ガスや騒音に



▲QRコードを記載したカードなどを配布



▲マーケティング課主任の乾優美氏



▲業務チーム主任の磯谷篤氏

るなど周知に努めた。その結果、枚方機材センターでは、現在、受付の約7割がオンライン受付によって行われている。待機時間が少なくなったことで、機材センターの周辺で待機するトラックが周辺環境に与える影響の軽減にも役立っている。

そうしたなか、2021年からデジタル技術を活用した新しい荷受け方式の検討を始め、2023年に枚方市、大阪市大正区にある機材センターで、ドライバーの待ち時間の解消につながる順番管理システムを導入した。検討段階では、ドライバー専用に関開発されたシステムなども含め他のシステムも検討したそうだが、他業界でも活用されている汎用性のあるシステムを使うことで初期費用が抑えられることや、デジタル機器に不慣れなドライバーも直感的に操作しやすいことが導入の決め手となった。

このシステムを使えば、ドライバーは機材センターに立ち寄ることなくスマートフォンから順番受付を済ませることができる。待ち台数もリアルタイムで確認できるため、集配先の順番を入れ替えるなど荷受けまでの時間をより有効に活用できる。最大2時間程度であった待ち時間は、システム導入後、最大でも1時間程度に短縮している。導入初期において、システム等をいかに利用してもらうかが課題となるが、同社ではドライバーに向けてQRコードを印字したチラシやカードを配布す

るなど周知に努めた。その結果、枚方機材センターでは、現在、受付の約7割がオンライン受付によって行われている。待機時間が少なくなったことで、機材センターの周辺で待機するトラックが周辺環境に与える影響の軽減にも役立っている。

同社にとっても、対面受付、紙台帳での順番管理、ドライバーへの電話対応などの手間を省力化できたことで、業務効率化が実現できた。順番管理システムのレポート機能を活用して実際の待ち時間を可視化することで、混雑時期(繁忙期)のスタッフ配置の最適化や待ち時間の原因となっている作業工程の見直し、混雑回避のための時間指定予約の新たな導入など、今後取り組むべき課題も明らかになった。

非接触タグの導入で 業務の大幅な合理化を実現

同社ではDXに関する取組のひとつとして、非接触型のRFIDタグの導入・活用にも早くから注力している。ICチップとアンテナで構成されるRFIDタグは、リーダーを使ってタグから発信される電波を瞬時に読み取ることができるのが特徴だ。2019年ごろから導入を開始し、現在では自社商材15万台に取り付けて機材管理に活用している。

導入前は、機材に添付されたバーコードを1つずつ読み取る必要があったが、このタグならリーダーで一度に大量の機材情報を読み取ることができる。その結果、機材の入出庫時の確認に要していた時間が20%短縮され、より早く現場に機材を届けられるようになった。「センターの業務の中でも大きなウェイトを占める棚卸しの効率化にも役立っており、社員の残業時間の短縮につながっています」と山田社長。さらなる業務効率化のため、将来的には顧客が所有する機材へも同様のRFIDタグを導入してもらい、自社、顧客、現場まで一貫したモノの管理を実現したいと、次なる展開にも意欲を見せる。

同社のこうした取組は、2020年に経済産業省が示した物流MaaS(マース)の実現像にも通じる。荷主、運送業者、車両などのデータを連携させ、自動化を図ることで、時代に見合った物流機能の実現を目指す考え方で、RFIDタグの導入も具体的な取組のひとつに挙げられている。「物流・運送業界の2024年問題は建設業界と密接に関わる課題であり、DX推進が急務である。」と山田社長。同様の課題認識を持つ企業も多く、同社ではRFIDタグについて2024年に15社程度の見学を受け入れてきた。同業他社のほかゼネコンなどからの見学希望もあり、DXに関する情報発信にも積極的に取り組んでいる。



▲機材の積み下ろしの効率化が実現した

大手自動車メーカーに学んだ 改善システムを実践

同社では、その他の業務効率化に向けて、大手自動車メーカーの現場改善システムの導入と活用にも取り組んでいる。大阪市大正区と浦安市にある機材センターをモデル事業所として、過去2年間にわたって専門家のレクチャーを受けながら、業務の見直しや職場環境の整備を進めてきた。センター内の従業員の導線や設備機器などの配置、安全管理基準の見直し、システムチェックな備品の管理、現場の社員の声を事業に反映させるための改善活動など、ポイントは多岐にわたる。

また従来より取り組んでいる業務改善メモにより社員それぞれが実施している業務改善を社内でも共有し、横展開することで全体の効率化につながっている。社員は課題とそれに対する改善方法、定量的な成果を記載して提出、成果が認められた場合は提案した社員に報奨金が出る。自身の成果が正当に評価されることで提案の数が大きく増えたそうだ。中でも、マーケティング課の乾氏が提案した、メールの署名欄に新商品紹介ページへのリンクを貼り付けるというアイデアは全社員に展開され、ラインナップの拡充に取り組んでいる同社の新商品の認知度向上に役立っている。

今後は、改善手法をさらに充実させるとともに、残る17の拠点に改善システムを展開するための取組が進められており、業務効率の一層の改善が期待される。

顧客のDXも進めることで 業界の課題解決に貢献

建設業界では人手不足や長時間労働などの課題に直面している。そこで同社では、これまでの社内DXで培った知見やノウハウを商品開発に反映し、顧客のDXも進めている。例えば同社のウェアラブルカメラ導入により現場監督が現地に行



▲さらなるDX化にも積極的に取り組む

かずとも施工状況の確認や竣工検査が可能となっている。高所確認のためのドローンについては、機器のレンタルだけでなくオペレーターの派遣やメンテナンスまで含めたサポートも行っている。また、同社で導入したものと同一RFIDタグの導入支援も始めているという。このような事業により建設現場の作業効率化に繋げている。

今後は、順番管理システムのさらなる拡充、RFIDタグの高度化に加えて、電話やファックスによる受注からアプリを活用した受注システムへの順次転換、請求書のペーパーレス化、さらには顧客のシステムと自社のシステムを連携させるなど、さらなるDXの推進に取り組む方針。将来的には、アプリで顧客がどのような機材を、何台、どこで使われているかをリアルタイムで確認できるような機能を拡充していく方針だ。「そのためには、基幹システムの改善、お客様のシステムとの連携が重要な課題です。これからも専門家のサポートも得ながら、DXを積極的に進めていきます」と山田社長は意気込みを見せる。

関西広域連合では、構成府県市等で実施されている
MaaS関連の取組をまとめています



広域産業振興局では関西の成長の方向性を示した
「関西広域産業ビジョン」を策定しています！
「アクションプラン」「関西ポテンシャルマップ」「構成
府県市リーディングケース」もぜひご活用ください。



関西広域連合 広域産業振興局NEWS

メルマガ会員募集中！

ぜひ、ご登録ください（登録無料）

kansaisangyotouroku@qt15.asp.cuenote.jp



関西広域連合 広域産業振興局 公式Instagram

イベント情報発信中です。

フォロー・いいねをお願いします！

@kouiki_sangyo



発行元／関西広域連合 広域産業振興局
〒559-8555 大阪市住之江区南港北 1-14-16

大阪府商工労働部 商工労働総務課内
TEL06-6614-0950 FAX06-6210-9481
E-mail sangyo@kouiki-kansai.jp

URL <http://www.kouiki-kansai.jp/koikirengo/jisijimu/sanshin/index.html>



さあ、関西の時代へ

関西広域連合
UNION OF KANSAI GOVERNMENTS